

## 67 あはき国家試験再受験の状況と進路について

国立障害者リハビリテーションセンター 理療教育・就労支援部理療教育課 杉本龍亮

長い間、視覚障害者の経済的自立の一步は、按摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師免許の取得であった。按摩や鍼で生計を立ててきた江戸時代から現代まで、さらに、国家試験制度に変わった現在も重要な自立の手段になっている。しかし、社会環境の変化や施術者の資質と社会的地位の向上を目指す動きにより、従来の教育システムでは対応しきれなくなりつつある。

### 1. 盲学校理療教育課程の現状

当センターの状況を考える際に、盲学校の状況を参考にしたい。理療教育を行っている学校は、全国に59校ある(2016年度)。あはき関係学科の生徒数は、本保で307名(2005年)から124名(2015年)に、専保は361名から278名に、専理は951名から596名に、3科の合計は1,619名から998名に減少した。

### 2. 法改正に向けた動き

2012年6月に日盲連から「あはきプロジェクトの報告書」が出された。教育の質の向上と業の発展を促す観点から、中卒課程と高卒課程の併科の修業年限に係る問題を指摘し、あはき法第18条の2項の廃止が提案されている。その後現在に至るまで報告書を基に各関係団体と会議を重ね、あはき法制定70周年を迎える来年度に向けて、活発な議論が行われている。

### 3. 国家試験の合格率

一昨年に行われた第23回あま指師の国家試験において、晴眼者の新卒者受験者は1,155名、合格者1,126名(97.5%)で、視覚障害者は新卒者受験者395名、合格者は349名(88.4%)であった。一方、再受験者では晴眼者80名、合格者32名(40.0%)に対し、視覚障害者は162名、合格者42名(25.9%)であった。あはき師国家試験の視覚障害者の再受験者合格率はさらに低く、はり師8.9%、きゅう師11.0%であった。

### 4. 環境の変化

晴眼者向けの鍼灸・柔整学校数は、1998年にはいずれも14校だったが、2015年には鍼灸学校は93校、定員875人から5665人に、柔整学校は109校、定員1,050人から8,797人に激増した。その結果、定員に対する充足率(定員に対する入学者の割合)は、鍼灸学校では5割台に、柔整学校では6割台にと年々低下している。これに対し、あま指師学校の充足率は100%であった。

### 5. 進路状況

「按摩免許だけでも取らせてあげたい」とよく言われるように、あま指師免許の有無によって自立の状況は大きく変わる。再受験者の累積問題が深刻化し、地域単位や有志で対策を講じている状況は依然として厳しい。加えて、晴眼学校では、あま指師課程の人気のが高く、このような状況を反映して国家試験の出題難易度も年々上昇し、さらに視覚障害者の不合格者を生む原因となっている。

あま指課程と国家資格の取得が決して容易なものではないことを利用者は勿論、私たち教官も再認識し、累積再受験者の自立を地域と連携してサポートすることなどを検討していきたい。